

2015年度 行事部主催 施設見学研修会 報告

－宮川医療少年院－

2015.7.31(金) 13:30～15:00

1. はじめに

今年度の行事部施設見学研修会では、昨年度に続き、三重県伊勢市にある「宮川医療少年院」を訪れました。昨年度、希望が叶わず見学できなかった先生方や、研修等で医療少年院の取り組みを聞き興味を持っておられる先生方などから、今年度もたくさんの申し込みがありました。普段なかなか見学する機会のない少年院で、施設の方から貴重なお話をたくさん聞かせていただき、施設を見学させていただきました。プライバシー等の制約があるため、写真を掲載することはできませんが、約1時間半の見学で学んだことを報告します。

2. 時程 2015年7月31日(金) 13:30～15:00

9:00	参加者集合、受付
9:15	出発
13:15	現地到着、見学
	1) 概要説明 2) 施設見学 3) 質疑応答
15:15	現地出発
18:30	解散

3. 宮川医療少年院について

(1) 施設のあらまし

宮川医療少年院は、主に東海・北陸・近畿の各家庭裁判所において少年院送致決定を受けた入院時におおむね12歳以上20歳未満の男子少年のうち、

- ①知的障害又はその疑いのある者及びこれに準じた者で処遇上の配慮を要するもの
- ②情緒障害若しくは発達障害又はそれらの疑いのある者及びこれに準じた者で処遇上の配慮を要するもの

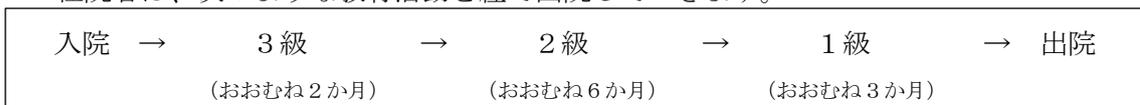
を収容し、特性に応じた治療的教育を行います。

(2) 教育の特色

- ①基本的な生活習慣を体得し、円滑な社会復帰に向けての生活意欲を高め、社会に適応する力を向上させるための教育。
- ②受容的な雰囲気の中で、認知機能の向上を図り、自己理解を深め長所を伸長するための治療的教育。
- ③再犯・再非行を防止し、健全な生活を送る習慣を身に付けるための指導。

(3) 教育の内容

在院者は、次のような教育活動を経て出院していきます。



生活指導・職業指導・教科指導・体育指導・特別活動指導

(4) 一日の生活

6 : 5 0	起床・洗面・清掃
7 : 2 0	朝食
9 : 0 0	朝礼
9 : 1 5	教育活動
1 2 : 0 0	昼食
1 3 : 0 0	運動・教育活動
1 5 : 3 0	面接・読書・学習
1 6 : 3 0	夕食
1 8 : 0 0	日記・課題学習
1 9 : 3 0	余暇時間（テレビ視聴等）
2 1 : 0 0	就寝

職業指導・・・在院者の多くは転職を繰り返しており、基本的な勤労習慣が身につけていないため、一つの仕事に集中できるよう、根気・忍耐力を育てています。また、こうした実習を通して、心身の機能の向上をと協調性も育てています。

教科指導・・・義務教育や高等学校への進学を希望する者に対する指導を行っています。

治療的指導・・・認知機能強化トレーニング・認知作業トレーニング
認知理論に基づいた治療的教育プログラムを実施しています。

社会復帰支援・・・出院後を見据えて、住居、就業先その他の生活環境の調整を行い、在院者が円滑に社会復帰できるよう必要な支援を行います。

①帰住調整 ②医療・療養に係る支援 ③修学に係る支援 ④就業に係る支援

(5) 年間行事

1月	成人式	3月	卒業式	4月	観桜会
6月	開院記念行事	10月	運動会	11月	収穫祭
12月	クリスマス会				

その他、各種スポーツ大会、保護者会等を開催。

4. 感想

- ・次長様の説明がとても優しく、わかりやすかったのですが、子どもたちにもこんな対応をされているのだろうと想像されました。様々な場所での配慮も感じられました。指導している子どもたちの未来がそれぞれの子にとっていいものになるよう、改めて自分の仕事の重さを実感しました。
- ・鑑別所に入る可能性がある生徒や支援学級でも非行傾向の生徒の対応を考えさせられました。少年院のイメージが変わりました。
- ・興味深い内容で、自分自身が関わっている子どもとの関わりを見つめ直す貴重な機会となりました。施設の方が学校では「枠を作ってあげる」ことも必要だと話されていましたが、彼らが社会の中で生きていくために必要なスキルなども身につけていく取り組みも改めて大事だとわかりました。
- ・職員の方が熱い思いを持って、日々在院者と接しているのがよく分かりました。今後、研修会で具体的に認知機能強化トレーニングや認知作業トレーニングの内容を知りたいです。
- ・普段見ることのできない施設を見学でき、非常にためになりました。「優しいが故に使われてしまうことが多い」という言葉が印象的です。そういった芽を摘み、未然にこうしたことを防ぐてだてを地域や学校が取り組んでいかなければと感じました。
- ・医療少年院の成り立ちや収容少年の情報についてよく理解できた。本校にも生活指導上の課題を抱える生徒もおり、医療少年院内で実施される教育の内容についてもっと知りたかった。
- ・これまで出会った子ども、今関わっている子どもの中にもちょっとしたきっかけで医療少年院にお世話になる可能性のある子どもたちはいます。支援教育の必要性を改めて感じました。
- ・とても興味深く参加することができました。支援学級の担任をしていると、「将来罪を犯す可能性があるのでは？」と感じる生徒と出会うことがあります。そんなことにならないよう、強い思いを持って、自立できる力をつけさせてあげたいと改めて感じました。

5. おわりに

施設見学では、建物の廊下に飾られた、ちぎり絵の精巧な作品や工芸品などを見ることができました。少年院では、少年たちが社会に出られるようになるまで、しっかりとした教育が行われているのだと改めて感じました。

質疑応答では、参加されたある先生から、「学校で取り組んでほしいことはどんなことですか」という質問がありました。施設の方からは、「善悪のラインを示し、しっかりと枠にはめてあげてほしい。」「保護者が通常学級を望むケースもあると思うが、その子に合った支援ができるよう、説得してほしい。」という回答をいただきました。保護者向けに、「家庭に居場所を」「障害理解」といった内容の講話会を開かれたりもしているそうです。

関係機関とつなぐことや、子どもたちを理解し受け止め、しっかりとしたルールのある安心できる場所を作ることが、子どもたちが更生し再犯を防ぐためにも、私たち教師に求められていることなのではないでしょうか。

以上、今年度の行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。宮川医療少年院の方々、当日はお忙しい中、大支研施設見学研修会のためにお時間を割いていただき、ありがとうございました。末尾ながらお礼申し上げます。

大阪府支援教育研究会 行事部